

【一般の方々向け】 麻しん発生状況に関する注意喚起（2023年5月23日現在）

2023年4月以降、全国各地より麻しん患者4例が相次いで確認されています。

- ◇ 茨城県、麻しん（はしか）の患者の発生について（4月28日）
<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/yobo/kiki/yobo/kansen/idwr/press/documents/mashin.pdf>
- ◇ 東京都福祉保健局、麻しん（はしか）患者の発生（5月12日）
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/hodo/saishin/pressboueki230512.html>
- ◇ 兵庫県神戸市、麻しん（はしか）患者の発生（5月18日）
<https://www.city.kobe.lg.jp/a00685/20230112.html>

感染症法に基づく感染症発生動向調査及び関係自治体による積極的疫学調査より、少なくとも3例の麻しん患者が、共通の公共交通機関を利用していたことが明らかとなっております。感染性を有する期間に不特定多数の方と接触があった可能性があり、今後、広域的な感染拡大の可能性が危惧されます。また、4例いずれの患者も30～40代の成人で、麻しん含有ワクチンに関して記録上2回接種済の方はおられませんでした。なお、3例は入院を要する症状を呈していました。

麻しんは、海外の多くの国で患者数が増加しており、インドやインドネシアでは地域流行が発生しています（2023年4月28日時点）。昨今、新型コロナウイルス感染症により制限されてきた国際的な人の往来が徐々に増加しつつあります。麻しんの症状がある国内外からの観光客が、公共交通機関等を利用することで国内での広域的な麻しん患者発生への影響も懸念されます。

麻しんに罹患すると、高熱などの症状を呈する他、肺炎や脳炎などの重篤な急性の合併症で1000人に1人の感染者がお亡くなりになると言われています。また、回復されても、長期の潜伏期間を経て進行性の神経症状を呈する重篤な後遺症（SSPE：亜急性硬化性全脳炎）を発症することもあります。

麻しんの予防には、ワクチン接種が最も有効です。特に、国内外の不特定多数の観光客との接触機会が多い方など麻しんにかかるリスクが高い方や、医療関係者など麻しんにかかることで周りへの影響が大きい方である場合、流行国に渡航する場合は、2回の麻しん含有ワクチン接種歴を確認することが推奨されます。

麻しんは、非常に感染力の強い疾患であることから、発熱、発疹、結膜炎、上気道炎症状（咳、鼻水など）などの麻しんを疑う症状が出現した場合や、発熱や発疹などの症状を呈する方に接触されて1～2週間後に同様な症状を呈された方などは、事前に医療機関に連絡の上、受診し

てください。受診の際はできるだけ公共交通機関の利用はお控えください。

<参考>

国内の麻疹の発生動向

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hassei/575-measles-doko.html>

麻疹に関する特定感染症予防指針（平成 31 年 4 月 19 日一部改正・適用）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000503060.pdf>

麻疹に関する基本的な情報（主な症状や対策等）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html